貸し出し資料について

■貸し出し資料■

1．千人針

腹巻きくらいの白い布に、千人の女性が赤い糸で一個ずつ合計千の結び目をつけたもの。これを身体に巻いていると弾が当たらないといわれた。 戦地に向かう兵士のために、街頭で千人針を道行く人々にお願いする姿が多く見られた。四銭（シセン：死線）や九銭（クセン：苦戦）を越えると言われたことから、五銭や十銭銅貨を縫い込んだりしたものもある。

2．臨時召集令状（複製）

軍隊に入るようにという命令を「召集」という。役場を通して本人か家族に召集令状が配達された。召集令状がくると、入隊することを拒むことはできなかった。薄い赤っぽい色をしていたので「赤紙」と呼ばれた。

3．出征たすき

軍隊に召集され、戦地に行く際に、これを肩にかけ見送られた。

4．防空頭巾

空襲や爆撃による火の粉や爆弾の破片から頭を守るための、綿が入った布の「帽子」。

5．配給切符

戦争が長引くと、食糧、衣料、燃料などの日用品が不足するようになった。これらの日用品は自由に売買することができなくなり、決められた数量だけが配給されるようになり、切符がないと買えなかった。

６．慰問袋

戦地の兵士を励ますために、日用品や娯楽品、手紙などを袋に入れて送った。婦人会や学校など、至る所でこの慰問袋を送ることが奨励された。

７．鉄かぶと

空襲や爆撃から頭部をまもるための鋼鉄製の帽子。ヘルメット。

資料は、陸軍兵士が着用していたもの。

８．ゲートル

足をまもるために足に巻く帯状の布。戦場では応急処置の包帯がわり、骨折した手足をしばるヒモがわりにもなった。

戦時中は女性のモンペとともに、男性はゲートルを巻くのが好ましいとされた。資料は、陸軍兵士が使用していたもの。

９．国防婦人会たすき

国防婦人会は、戦地に赴く男性に対して、国民生活を支える女性の組織。例えば、それぞれの地域の兵隊さんの見送りや戦死者の遺骨の出迎え、慰問、国防献金などの活動をした。

活動の時には、このたすきと白い割烹着をつけていた。

昭和１７年以降、２０歳以上の女性は強制的に加入させられるようになった。

１０．いなご採り袋

戦時中は、食糧不足で、いなごも食べてたんぱく源にしていた。袋の口に竹筒を取り付け、そこからいなごを入れた。

１１．雑誌 「週刊少国民」の表紙（ラミネート版）

昭和１６年、尋常小学校（当時の小学校の呼び名）の呼称が国民学校にかわると、子どもたちは児童ではなく「少国民」と呼ばれるようになった。小さくても立派な国民で、戦争に協力しなければならないという意味が込められていた。

子ども向けの「少国民新聞」、「週刊少国民」といった新聞・雑誌が発行された。

１２．カルタ 「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）

戦時色が強くうかがえる当時の子どもたちのおもちゃ。

１３．双六 「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）

戦時色が強くうかがえる当時の子どもたちのおもちゃ。